

鹿児島医セン

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設） 2013.1 vol.81



新年明けまして おめでとうございます。

皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。昨年1年間多くの皆様に支えられ新年を迎えることができますことを心より感謝申し上げます。

さて、年末解散、総選挙の結果自公政権が復活しました。経済再生、デフレ脱却を目指して大胆な金融政策を採るとのことですが、公共事業だけでなく医療福祉にも力を注いで欲しいものです。

昨年当院はこれまで女性病棟として利用してきた東3階病棟を男性も入れるように改装し、一部病棟再編を行いました。多少混乱もありましたが現在は落ち着いて運営されています。同時に外来中央採血室および心エコー検査室の改装も行い、患者さんの便宜に添えるようにいたしました。正面玄関横には地域連携室を兼ね備えたメディカルサポートセンターを造り、相談窓口として活用してもらっています。7月から電子カルテを導入稼働いたしました。導入時皆様にご迷惑をおかけしたことをお詫びいたします。おかげさまで大きな事故も無く運用していますが、まだ構築中のシステムもあり、慣れない中でも使い勝手の良い電子カルテを目指して改良を重ねていくつもりです。

昨年は、初めての試みとして地域医療連携懇談会を開催いたしましたところ、多数の方々のご参加を頂きありがとうございました。今後もお互いに顔の見える連携を目指してこのような会を催し、当院に課せられた地域医療の責を果たして行こうと思います。また、患者さんの受け入れ体制強化のために東5階病棟のSCUおよび西4階病棟の無菌室増床を行いました。脳卒中の患者さんや化学療法の患者さんの受け入れが今までよりスムーズにできるものと期待しています。本年はCT装置2台稼働のための工事を始めます。予定より遅れ完成は3月末になりそうですが、CT予約の待ち期間が短くなるものと期待しています。

本年も1月13、14日に緩和ケア研修会、3月に循環器市民公開講座、6月に脳卒中市民公開講座を予定しています。今後とも循環器、脳卒中、がんを3本柱として、地域に必要な病院を目指して努力していくつもりです。本年も御指導、御鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

この誌上で新年のご挨拶を申し上げるのも最後の年になりました。4年間ありがとうございました。今後ともよろしくお願いいたします。

(院長 山下 正文)

幹部年賀状



副院長
花田 修一

新年明けましておめでとうございます。
循環器、がん、脳卒中という当院の専門診療に関し、いつもご支援をいただきありがとうございます。昨年は、地域の医療施設の方々との顔の見える関係を構築していくことを目的として、当院としては初めての試みである地域医療連携懇談会を開催しました。多くの先生方や看護師さん、地域連携の担当の方々にご出席いただきました。準備や開催当日の配布資料等行き届かぬ点が多々ありましたが、皆様のご協力をいただき多くの成果を得ることができました。この会は今後も継続して参りますので、ご出席のほどよろしくお願いたします。
当院の担当する上記3診療に関しましては、日常診療の質向上と同時に救急体制の一層の向上を目指して、職員一同努力しています。今年も顔の見える関係をさらに進展させ、地域医療連携を進めたいと思います。一層のご指導、ご支援をよろしくお願いたします。



統括診療部長
皆越 眞一

新年明けましておめでとうございます。
昨年は九州新幹線やドクターヘリが本格的に稼働し、鹿児島島の医療も変化し始めた年でした。また、院内では電子カルテシステムの稼働やメディカルサポートセンターの設置、循環器救急体制の開始、SCUの増床、無菌室の改築、歯科の増設などが行われ、現在も2月に予定されている病院機能評価への準備が進行中です。院内的には充実した昨年度でしたが、今年度は、病院外にも目を向け、これからの病院の方向性を見極める大きな転換期の年であると考えます。
昨年も申し上げましたが、鹿児島島の医療には心血管疾患に対する医療施設の強化、専門医療育成への医療環境の整備、臨床研修医確保への総合病院の整備、医療機関同士の連携強化などが期待されています。鹿児島には中核となる基幹病院が少なく、お隣の熊本県に比べましても、公的病院のベッド数は少ない現状にあります。鹿児島島の医療が自己完結するためには、当院の基幹病院への成長と有機的な地域病院同士の連携強化が欠かせない目標です。
それでも当院は、これまで培ってきた脳、心臓血管の循環器医療とがんと治療に加えて、充実した救急医療体制を目指す一方、ICU機能の充実、専門科の多様化、さらに臨床研究部を中心としたメッセージの発信など、課題は山積しています。これらを解決すべく、大いに語り合い、向こう5年のロードマップを描く年にしましょう。本年もよろしくお願申し上げます。



臨床研究部長
城ヶ崎 倫久

新年のご挨拶を申し上げます。
さて、昨年末は政権交代がありましたので、今年は経済的にも外交上も明るい年になってもらいたいと思います。昨年の科学におけるビッグニュースとして、山中伸弥京都大学教授のiPS細胞の研究でのノーベル医学生理学賞受賞が挙げられます。成熟した細胞にたった4つの遺伝子を導入するだけで様々な細胞に分化できる万能細胞になることを誰が想像できたでしょうか。小生が大学の助手をしていた時、恩師が「城ヶ崎君ね。皮膚の細胞も心臓の細胞も、もとは一つの細胞だったんだよ。どうして心臓細胞になった細胞は皮膚の細胞にならないのだろうか。それを逆戻りにするものが必ずあるはずだがなあ。」と言われたことを思い出しました。恩師は循環器の専門の先生ですが、大先生の考えられることは凡人の及びもつかないものだと感じ入ったことを思い出しました。
ノーベル賞級のレベルではありませんが、当院の臨床研究も素晴らしい研究が沢山あります。昨年は英文原著論文14本、和文原著論文13本、国内・海外の学会発表は105回ありました。今年もよろしくお願致します。



地域医療連携室長
園田 正浩

新年明けましておめでとうございます。
昨年4月1日付で地域医療連携室長に就任いたしました。多方面でご支援いただきありがとうございました。
地域医療連携室は、医療福祉相談・転院・退院相談を中心に、医師、看護師、医療ソーシャルワーカー(MSW)および事務職員のメンバーでこれまで通り活動いたします。今年も連携室便り『鹿児島医セン』にて、毎月、院外向け研修会の開催、病院紹介、各病棟紹介、各部門紹介、新しい治療、ひとくちメモなどの記事を紹介していきたいと思っております。また、皆様方のおかげで昨年は第1回地域医療連携懇談会を開催することができました。今後さらに地域の医療施設との連携を深めたいと思っております。
患者さんに、より効率的で満足いく医療を提供するために、昨年4月からメディカルサポートセンターを新しく開設しました。運営は地域医療連携室、入退院支援、がん相談支援の3セクションで行います。
これからも“顔の見える連携室”を目指していく方針ですので、今年度もどうぞよろしくお願申し上げます。



事務部長
木村 喜美生

新年のご挨拶を申し上げます。
日頃より医療連携頂いております先生方におかれましては、患者様を多数ご紹介又はお引き受け頂き感謝致しております。

2012年は、当院におきましては電子カルテ導入、病棟等改修工事、医療機器更新等を行い、更なる地域医療発展のため診療機能の充実を随時図っているところであります。地域医療連携におきましては「メディカルサポートセンター」を設置し、より身近な病・病連携、病・診療連携に向けて鋭意努力しておりますので、先生方の忌憚のないご意見・ご要望等をお願い致します。

2013年におきましては、診療機能、医療の質、患者サービス、職員意識の向上等を更に高めるため2月に「病院機能評価」の受審を予定しております。その他、本年も病院全体としましても種々計画しておりますが、事務部門は引き続き病院発展のため事務職員一丸となって目標達成へ向けて努力して行きたいと考えております。

本年もどうぞ宜しくお願いします。



看護部長
中重 敬子

昨年看護部は、目標管理を重視して様々な取り組みを致しました。まず看護の質の向上として患者さんの早期緩和ケアの実施でした。実施に至るには、人材の投資と育成、そして体制と構造の構築を行い、平成24年4月に「メディカルサポートセンター」が誕生致しました。がん患者さんは勿論のこと、心臓病・脳卒中や慢性期疾患患者の早期緩和ケアがコンセプトです。がん相談支援・入院支援・退院支援を「多職種医療チームで関わる体制」が整いました。

次の主な取り組みは病床管理でした。病院開設依頼の課題だった女性病棟を男女混合病棟にし、血液内科・泌尿器科の混合病棟から血液内科専用病棟にし、無菌室の拡大を図りました。それらに伴う糖尿病・内分泌科の2回に渡る異動と専門的看護師の異動、看護部長のベッドコントロールは、まさに病院が何を目標しているかの使命感からくる目標管理でした。看護部の目標管理のツールはBSCです。その中の人材育成では、院内の看護職教育システムを充実させたことと、院外生への公開講座の拡大をし、院外研修生延べ人数は、約300名になります。

新人看護師の楽しく学ぶ看護技術基礎講座、循環器病・脳卒中・がん3領域工キスパートナーズ研修、認定看護師公開講座は、今年も継続致しますので地域の看護職の方の受講をお待ちしております。

さて、今年は巳年です。昨年導入したことは、更にトグロを巻ききっちり抑えて、質を上げるために脱皮する看護管理の継続です。

地域医療支援病院としての役割を果たすべき、循環器病・脳卒中中心の救急医療体制の向上、高度がん医療における専門職チーム医療の向上は、鹿児島医療センターの永遠の課題です。

2月には病院機能評価受審が控えております。看護部も一丸となって頑張ります。今年もどうぞよろしくお願い致します。

新任紹介



循環器科医師

いちき ひとし
市来 仁志

1月から第1循環器科で勤務させて頂いております。

平成14年から平成15年にも当院で勤務しておりましたが、この度10年ぶりの勤務となりました。久々の当院への復帰で、システム・環境に慣れるまで少し時間がかかるかもしれませんが、不整脈治療を専門としておりますので、不整脈領域を中心に少しでも患者さんやかかりつけの先生方のお役に立てればと考えております。今後ともよろしくお願い致します。



内科レジデント

おおの かなえ
大野 香苗

平成25年1月より2ヶ月間血液内科でレジデントとして勤務させて頂いております。福岡で2年間の研修を終え、平成24年4月より鹿児島で勤務しておりますが、当院は初めてです。色々と慣れないことも多いですが、先生方を始め看護師の方や、スタッフの方々に優しく教えていただき、何とかが働いております。2ヶ月という短い期間ではありますが、可能な限り学習、吸収し、今後の糧とできるように努力したいと思っております。まだまだ若輩者でご迷惑をおかけすると思っておりますが、どうぞよろしくお願い致します。



麻酔科レジデント

やまな ときこ
山名 登紀子

平成25年1月から麻酔科でレジデントとして勤務させて頂いております。12月までは市立病院で産科麻酔、小児麻酔の研修をしておりました。医療センターは心臓血管外科麻酔が学べる数少ない病院の一つですので、今回、医療センターで勤務できることを大変うれしく思っております。まだ病院のシステムに慣れず、分からないことが多く、ご迷惑をおかけするかと思います。皆様にご指導いただきながら、日々の業務に一生懸命取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

心臓血管外科医師

いわもと さとし
岩元 智

1月より心臓血管外科に赴任いたしました。よろしくお願い致します。

鹿児島医療センタークリスマスコンサート



クリスマスコンサートが今回で開催9回目を迎えました。以前は循環器科外来ホールや正面玄関側をステージとして利用していましたが、昨年度より中庭を憩いの場として整備、イルミネーションも設置するなどして、クリスマスコンサートを執り行うにふさわしい華やかなステージを設営することが出来ました。



オープニング曲はサザンウインド吹奏楽団の軽快な演奏から始まりました。コンサート開会式では、大塚医局長と山下院長先生から患者様への癒しの気持ちを込めたあいさつの言葉をいただきました。その後サザンウインド吹奏楽団の演奏が再開し、美空ひばりさんの往年の名曲やコブクロのドラマ主題歌、クリスマスソングのメドレーなどバラエティに富んだ心温まる演奏を披露していただきました。



2番手はつくし保育園児達による元気いっぱいのおゆうぎを披露してもらいました。おゆうぎの後にはサンタさん（花田副院長先生？）からプレゼントをもらって満面の笑顔の子や、片や泣き出す子もいたり大盛り上がりでした。



3番手は看護師の前田さんによる日本舞踊が披露されました。艶やかな立ち振舞いと日本古来から伝わる伝統芸能を拝見することができ、とても感慨深い気持ちにさせられました。

4番手は昨年度まで研修医として勤務されていた、毛利先生によるピアノ演奏です。曲は『ハナミズキ』『星に願いを』の2曲を御披露いただきました。優しく流れていくメロディに心癒され、会場の患者様からはたくさんの拍手が沸き起こりました。



ラストを飾るのは、看護学生さんによる意気の合ったコーラスです。楽しいクリスマスソングで締めくくっていただきました。途中で予定には無かった、職員4～5人がサンタとトナカイに見立ててコーラス隊の前を駆け巡るシーンなども見られ、驚きと笑顔が溢れていました。



最後に花田副院長先生より、無事にコンサートを終えることができた感謝の気持ちを込めてのあいさつをいただきました。

コンサートの余韻が冷めやまない中、患者様並びに御家族にティーパーティの会場に移っていただきました。調理師さん力作の見事なデコレーションスイーツと温かいコーヒー・紅茶をゆっくり堪能していただきました。

クリスマスコンサート全体を通じて、患者様へのおもてなし・ご配慮が細部まで行き届かぬ点もあったかと思いますが、職員皆少しでも療養の糧になっていただければとの思いで取り組みました。今後も微力ながら職員一同努めてまいりたいと思います。

最後になりましたが、ご出演いただいたサザンウインド吹奏楽団、つくし保育園の園児達、前田さん、毛利先生、看護学生の方々にお礼申し上げます。

またクリスマスコンサート実行委員の皆さま、栄養管理室の皆さま、ボランティアでご参加いただいた学生さん・職員の皆さまにも、この場を借りて感謝いたします。

（文責：外来係 近藤 拓哉）

2 月看護研修のご案内

主催 鹿児島医療センター看護部教育委員会

急変時対応

- 日 時：平成25年2月18日（月）18時30分～19時30分
- 場 所：鹿児島医療センター 大会議室
- 講 師：救急看護認定看護師 伊藤 由加
- 対象者：医療関係者

※ 参加ご希望の方は準備の都合上、各コース3日前までに教育担当（中村）までご連絡下さい。院外の方のご参加をお待ちしています。

電話 099-223-1151（内線 7264）FAX 099-226-9246

■お問い合わせ先

独立行政法人
国立病院機構

鹿児島医療センター（循環器・脳卒中・がん専門施設）

〒892-0853 鹿児島市城山町8番1号

(代)TEL 099(223)1151 FAX 099(226)9246 <http://www.kagomc.jp>

【地域医療連携室】 藺田・今泉・永重・重吉・森・吉留・梁川・酒井・櫻木・近藤

直通電話▶099(223)4425 フリーダイヤルFAX専用▶0120(334)476

※休日・時間外は当直者で対応します。

